

岡山県感染症週報 2013 年 第 5 週 (1 月 28 日～ 2 月 3 日)

◎ 岡山県は『インフルエンザ警報』を発令しました。(2 月 7 日発令)

◎ 岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2013 年 第 5 週 (1/28～ 2/3) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 4 週 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (20 代 男)
レジオネラ症 2 名 (60 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
第 5 週 5 類感染症 梅毒 1 名 (20 代 女)

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 2,670 名 (定点あたり 27.92 → 31.79 人) の報告があり、さらに増加しました。今後も患者増加の可能性があるので、岡山県は『インフルエンザ警報』を発令しました。
○感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 8.07 → 7.81 人)。

【第 6 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 80 施設でありました。(2 月 4 日～2 月 7 日まで)
○感染性胃腸炎による臨時休業が倉敷市の幼稚園 1 園、小学校 1 校でありました。(2 月 7 日)

- インフルエンザ**は、県全体で 2,670 名 (定点あたり 31.79 人) の報告があり、前週 (27.92 人) より、さらに増加しました。県全体の患者報告数が警報発令基準 (定点あたり 30.00 人) を越え、今後も流行が継続する可能性があることから、岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し (2 月 7 日発令)、一層の注意喚起を図ることとしました。地域別では、倉敷市 (50.06 人)、真庭地域 (37.67 人)、備中地域 (34.83 人) で発生レベル 3 になり、特に、倉敷市は警報発令基準を大きく上まわりました。その他の地域でもレベル 2 が継続しています。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業も 117 施設から報告され、幼稚園児、小学生、中学生を中心に県内全域で流行拡大がつづいています。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。全国の第 4 週 (1/21～1/27) 集計によると、定点あたり 36.44 人であり、前週 (22.58 人) よりも大幅な増加となりました。全ての都道府県で前週より増加し、30 都道府県で警報レベルを越えました。
- 感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 8.07 → 7.81 人)。真庭地域は発生レベル 3 からレベル 1 になりました。ひきつづき流行シーズン中ですので感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
- 腸管出血性大腸菌感染症**は、2013 年は第 5 週までに 2 名の発生がありました。冬でも患者が発生しています。食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		★

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★★: 少し ★★★★★: やや多い ★★★★★★: 多い ★★★★★★★: 非常に多い
※今週の流行状況を過去 5 年間と比較し、5 段階で表示しています。

インフルエンザ情報 2013年 第5週 (1月28日～2月3日)

岡山県は「インフルエンザ警報」を発令しました。(2月7日発令)

➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で2,670名(定点あたり27.92 → 31.79人)の報告があり、さらに増加しました。

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し、より一層の注意喚起を図ることとしました。

○倉敷市、備中地域で発生レベル3が継続し、新たに真庭地域が発生レベル3になりました。

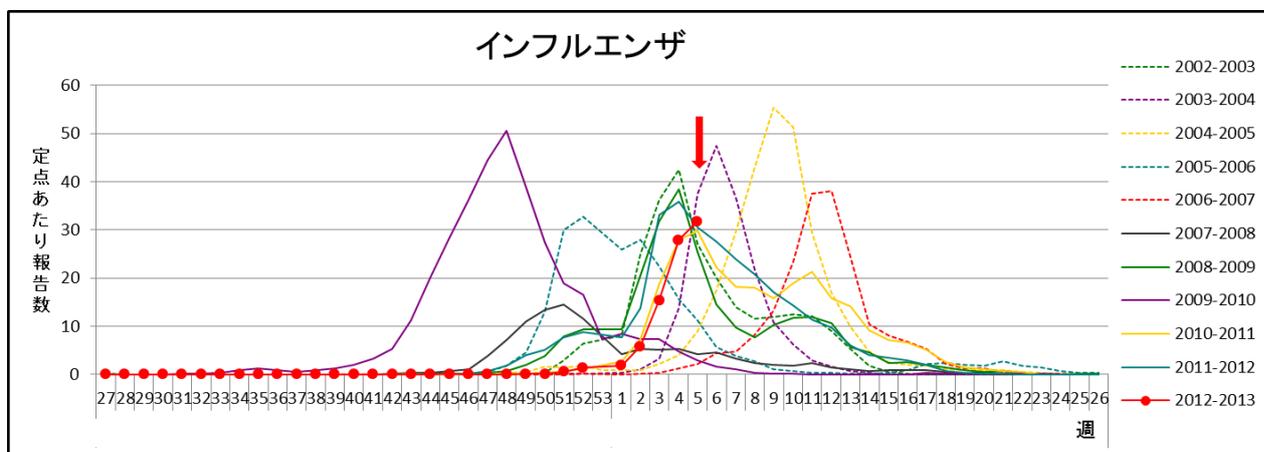
○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が117施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者5名の報告がありました。

【第6週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が80施設でありました。(2月4日～2月7日まで)

▽岡山市 22 ▽倉敷市 16 ▽備前地域 10 ▽備中地域 10 ▽備北地域 5 ▽真庭地域 3 ▽美作地域 14



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年27週～今年26週を1シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で2,670名(定点あたり27.92 → 31.79人)の報告があり(84定点医療機関報告)、前週よりさらに増加しました。岡山県では平成25年1月17日に「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っているところですが、県全体の患者報告数が警報発令基準の定点あたり30.00人を越え、今後も流行が継続する可能性があることから、2月7日、『インフルエンザ警報』を発令し、さらなる注意喚起を図ることとしました。

地域別では、倉敷市(39.25 → 50.06人)で警報発令基準を大きく超えました。また、真庭地域(15.67 → 37.67人)、備中地域(35.83 → 34.83人)でも警報発令基準を越え、大きな流行が発生したと思われる発生レベル3になりました。また、岡山市、備前地域、備北地域、美作地域では、大きな流行が発生する可能性があるレベル2が継続しています。患者はこれまで県南部を中心に増加していましたが、県北部でも大幅な増加がみられ、県内全域で大きな流行になっています。

第5週の学校等の臨時休業は117施設から報告があり、第6週も報告がつづいていることから、今後も幼稚園児・小学生・中学生を中心とした感染の拡大が懸念されます。

インフルエンザは現在流行期に入っています。感染予防を心がけ、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。また、予防接種を受けた人でもかかることがありますので、注意してください。

◆ インフルエンザは流行期に入っています。さらなる感染予防に努めて下さい。

- 家に帰ったら、手洗い・うがいをしましょう。
- 人混みに入る時は、マスクを着用しましょう。
- 十分な睡眠、バランスの良い食事などに気を付けて、抵抗力をつけましょう。

【 かかったかな?という時は 】

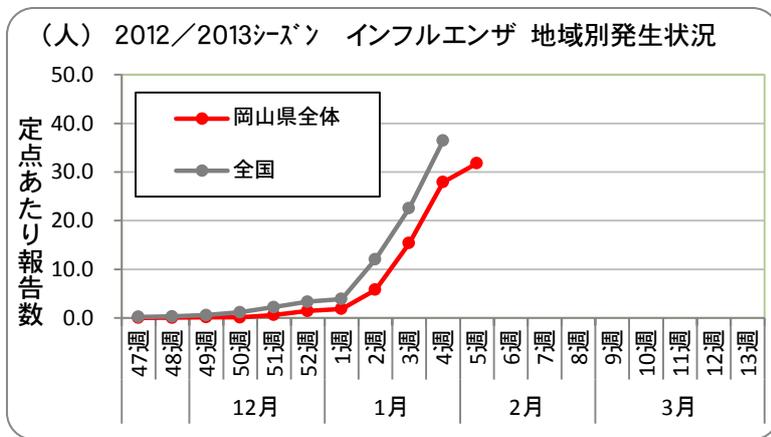
- 早めに医療機関を受診し、確実に治療しましょう。
- できるだけ昼間に受診し、必ずマスクを着用して受診しましょう。
- 周りの人にうつさないように「咳エチケット」を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

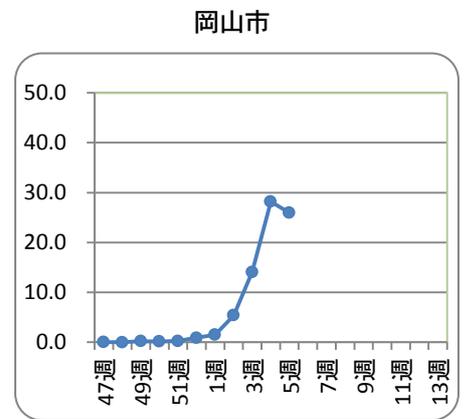
第5週(1/28~2/3) 前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	2,670	↗	備中	患者数	418	↗
	定点あたり	31.79			定点あたり	34.83	
岡山市	患者数	571	↗	備北	患者数	165	↗
	定点あたり	25.95			定点あたり	27.50	
倉敷市	患者数	801	↗	真庭	患者数	113	↗
	定点あたり	50.06			定点あたり	37.67	
備前	患者数	343	↗	美作	患者数	259	↗
	定点あたり	22.87			定点あたり	25.90	

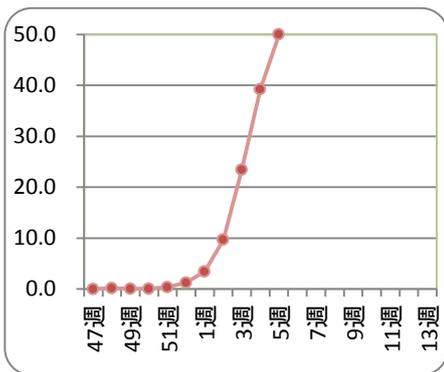
【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓, 1.1~2倍未満の減少 ↘, 1.1未満の増減 →, 1.1~2倍未満の増加 ↗, 2倍以上の増加 ↑



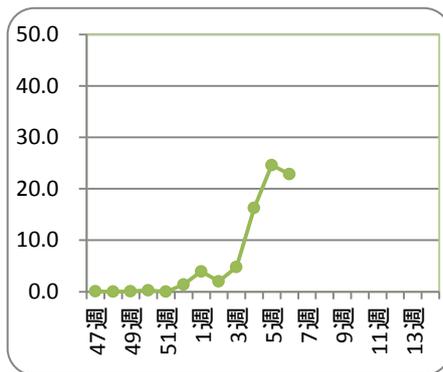
全国集計第4週(1/21~1/27)の定点あたり患者数は36.44人となり、前週(22.58人)よりも大幅な増加になりました。全ての都道府県で前週より増加し、30都道府県で警報レベル(定点あたり30.00人)を越えました。



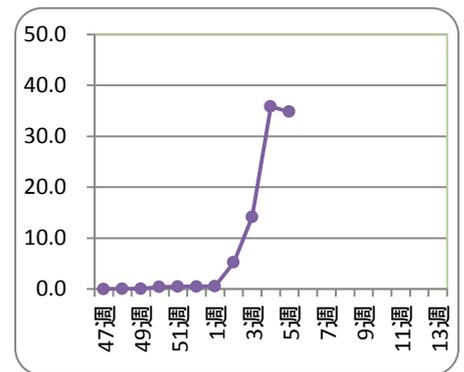
倉敷市



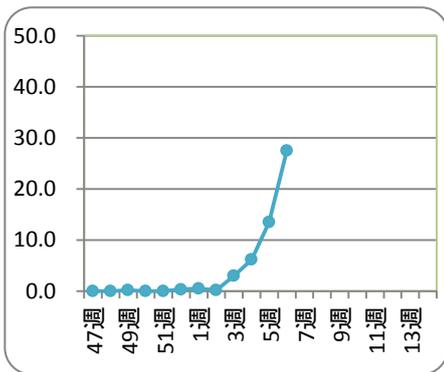
備前地域



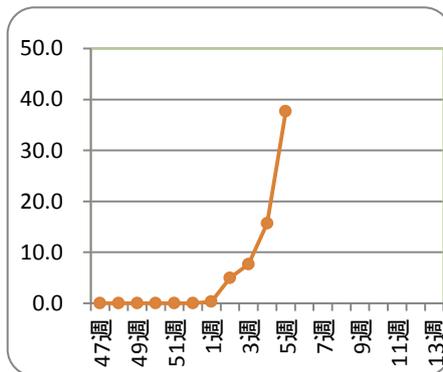
備中地域



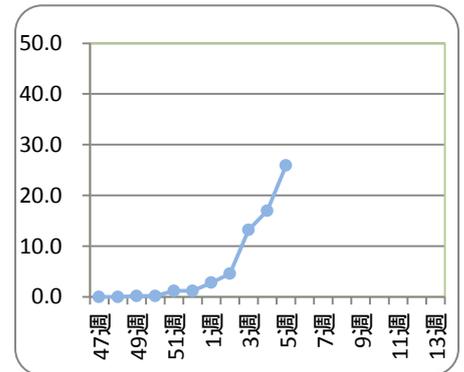
備北地域



真庭地域



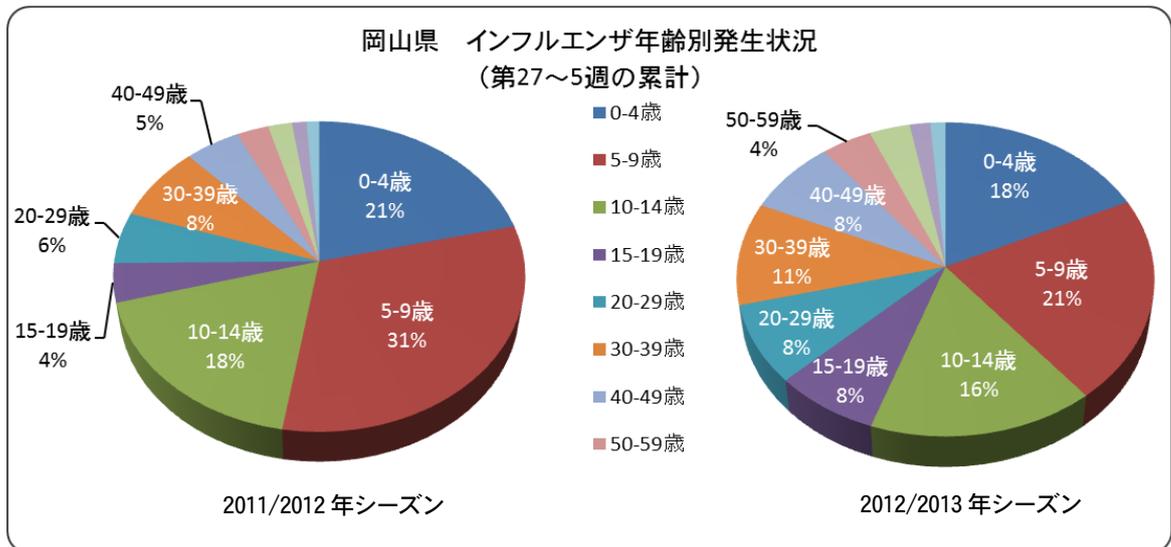
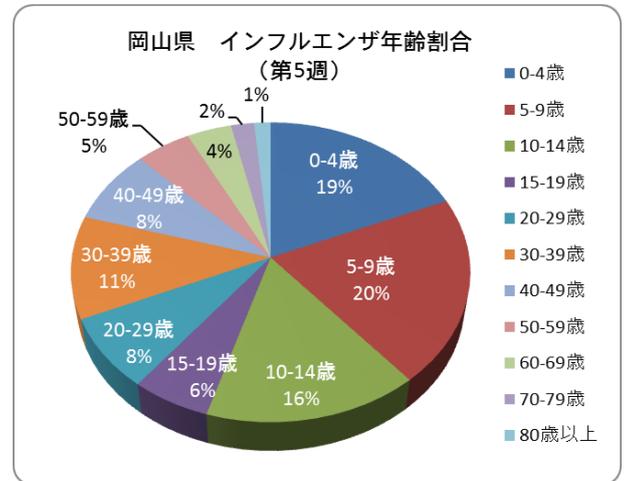
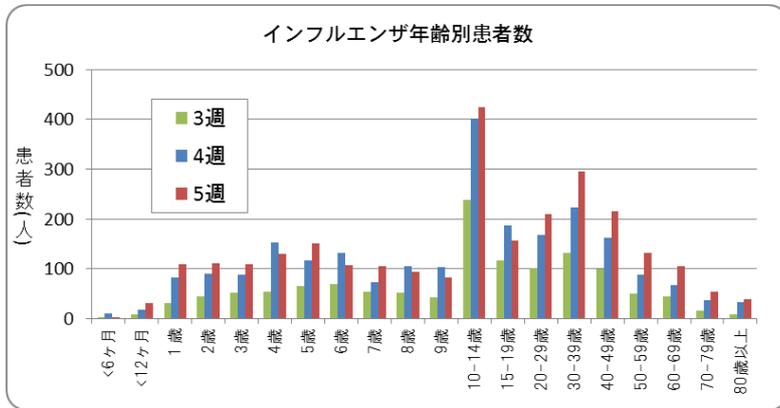
美作地域



2. 年齢別発生状況 第5週 (1/28~2/3)

第5週の患者の年齢割合は5-9歳が最も多く20%、10-14歳が16%、0-4歳が19%でした。15歳未満の幼児・幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の55%を占めおり、集団生活の中での感染に注意してください。

また、昨シーズンの同時期までの年齢割合に比べ、高校生・成人の割合が多くなっており、全ての年齢層で注意が必要です。



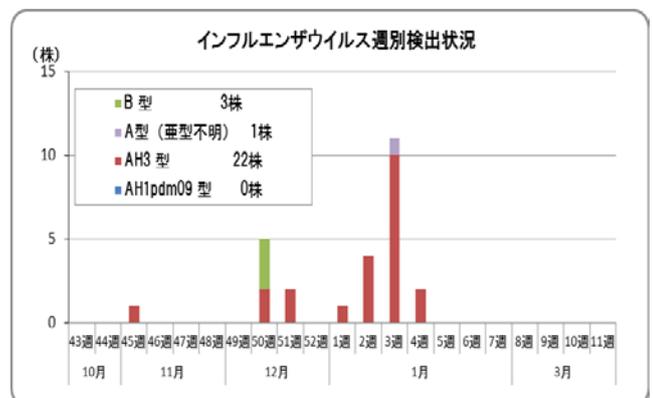
3. インフルエンザウイルス検出状況 第5週 (1/28~2/3)

第5週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、ありませんでした。

これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が22株、A型(亜型不明)が1株、B型が3株です。検出されたウイルスの85%はAH3型ですが、簡易検査ではB型も検出されています。一度インフルエンザにかかっても、型の異なるインフルエンザウイルスに再び感染することがありますので注意が必要です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く90%、B型が7%、AH1pdm09型が3%の順になっており、昨シーズン同様AH3型が主流になっています。

(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症情報センター)

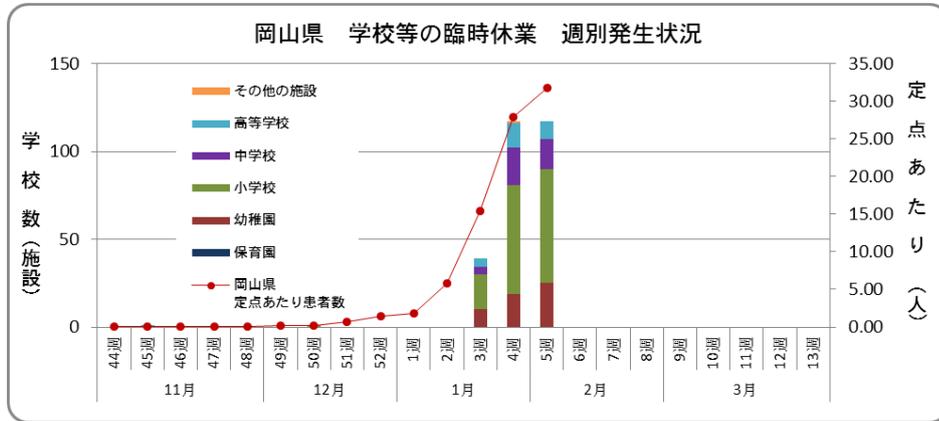


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第5週 (1/28~2/3)

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 117 施設であり、県内全地域から臨時休業が報告されています。

【第5週 臨時休業施設数】

▽岡山市 40 ▽倉敷市 28 ▽総社市 8 ▽玉野市 7 ▽井原市 4 ▽高梁市 4 ▽津山市 4 ▽真庭市 4
▽笠岡市 3 ▽新見市 3 ▽美作市 3 ▽瀬戸内市 2 ▽赤磐市 2 ▽吉備中央町 2 ▽矢掛町 1 ▽和気町 1
▽早島町 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第5週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	1885	4087	1347	3008	117	275	4	9	30	83	83	183	H 24. 11. 6
岡山市	658	1551	482	1139	40	96	1	1	4	14	35	81	H24. 11. 6
倉敷市	635	1076	421	743	28	57	0	1	2	6	26	50	H25. 1. 15
備前地域	145	491	104	367	14	40	2	3	6	18	6	19	H25. 1. 15
備中地域	230	520	191	431	17	45	1	3	5	23	11	19	H24. 12. 12
備北地域	84	135	61	107	7	13	0	1	6	10	1	2	H25. 1. 21
真庭地域	59	75	31	47	4	5	0	0	4	5	0	0	H25. 1. 21
美作地域	74	239	57	174	7	19	0	0	3	7	4	12	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第5週：117 施設

累計：275 施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	25	54	65	148	17	42	10	30	0	1

◆ 学校等の臨時休業が増加しています。

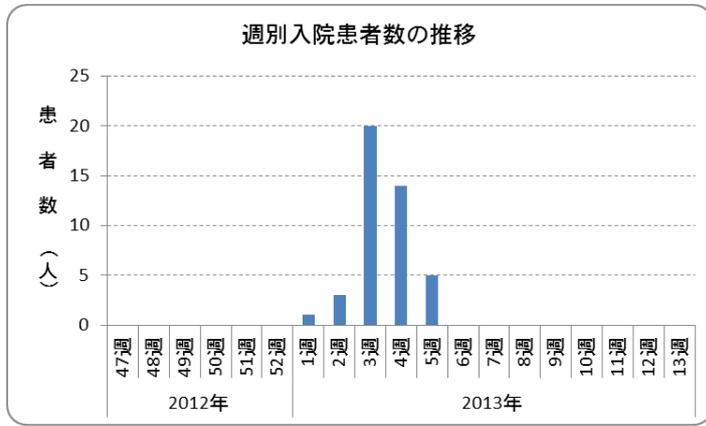
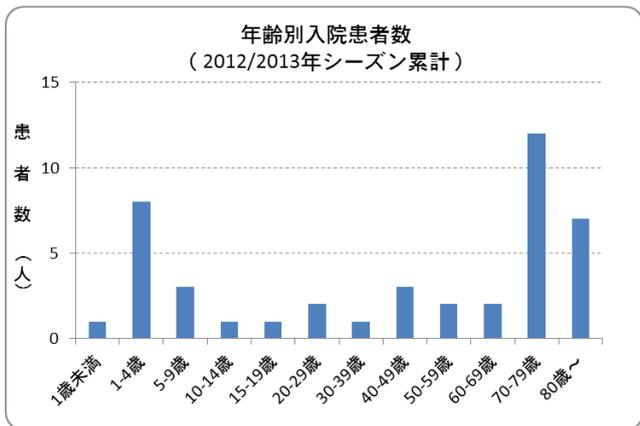
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児にあつては、3 日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第5週（1/28～2/3）（県内基幹定点5医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は第4週分追加が2名（幼児1名、10代1名）、第5週は5名（幼児2名、40代1名、70代2名）の報告がありました。10歳未満の幼児、70歳以上の高齢者で入院患者が増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第4週追加、第5週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		2	1	1				1			2		7
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)				1							1		2
頭部MRI検査(予定含)			1										1
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		2						1			1		4

*重複あり

【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	8	3	1	1	2	1	3	2	2	12	7	43
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用										1			1
頭部CT検査(予定含)		2	1	1	1	1					2		8
頭部MRI検査(予定含)		1	1		1								3
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず	1	6	1			1	1	3	2	1	10	7	33

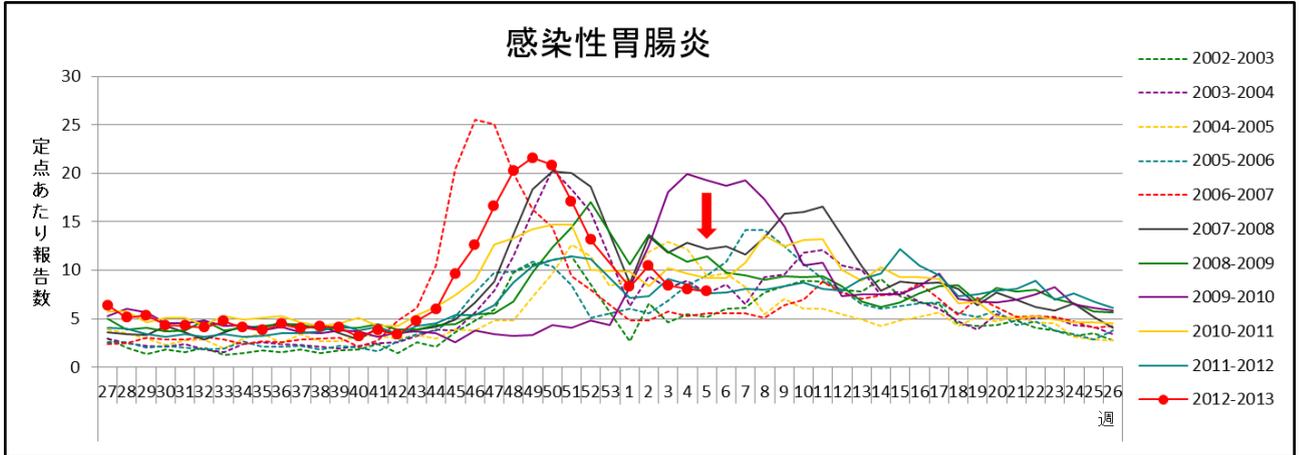
*重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 5 週 (1 月 28 日 ~ 2 月 3 日)

- 岡山県内の患者報告数は 422 名 (定点あたり 7.81 人) であり、前週とほぼ同数でした。(54 定点医療機関報告)
- 真庭地域は、発生レベル 3 からレベル 1 になりました。

【第 6 週 速報】

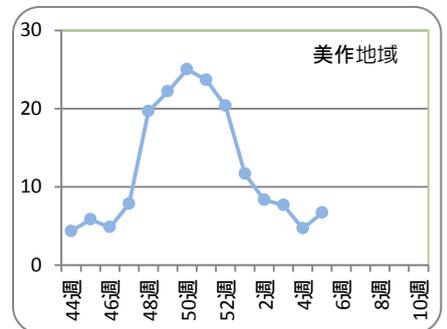
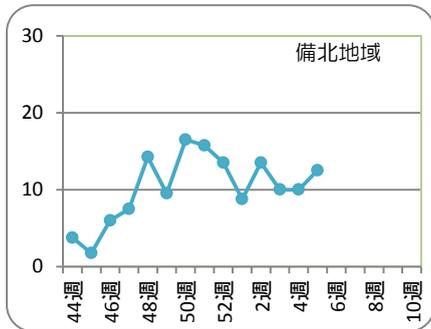
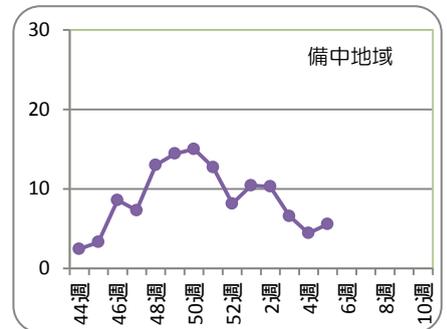
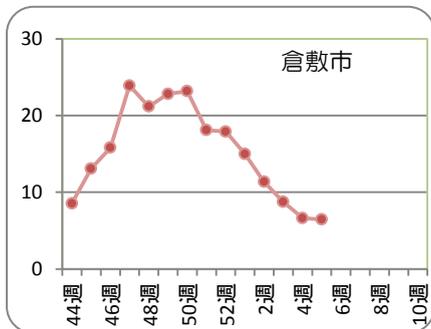
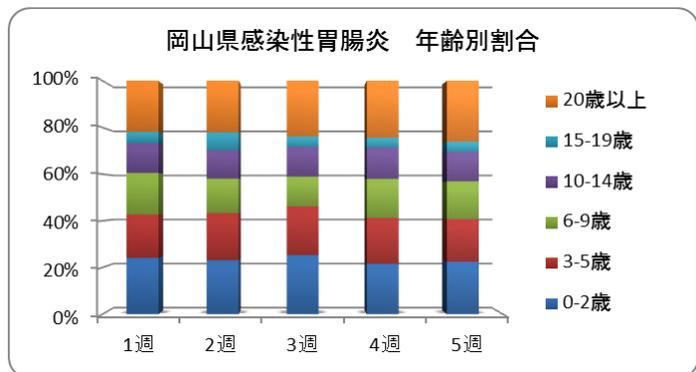
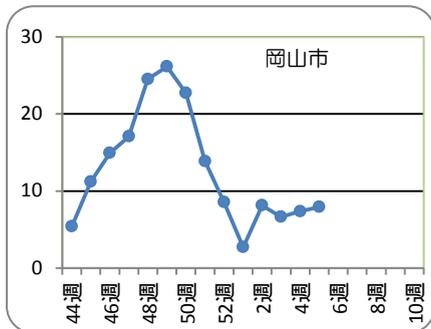
- 感染性胃腸炎による臨時休業が倉敷市の幼稚園 1 園、小学校 1 校でありました。(2 月 7 日)



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数で (定点あたり 8.07 → 7.81 人)、第 2 週以降はほぼ横ばいで推移しています。地域別では備北地域 (12.50 人)、備前地域 (9.90 人) では患者が多い状態で推移していますが、真庭地域 (23.00 → 6.00 人) では、発生レベル 3 からレベル 1 になりました。年齢別では、5 歳以下の幼児が全体の 41%、また、20 歳以上の成人が 26% を占めており、乳幼児・小児だけでなく、全ての年齢層で注意が必要です。大きな流行は過ぎたものの依然として流行シーズンはつづいており、第 6 週には学校等の臨時休業も報告されています。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 5週 (2013/01/28~2013/02/03)

2013年2月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2670	31.79	571	25.95	801	50.06	343	22.87	418	34.83	165	27.50	113	37.67	259	25.90
RSウイルス感染症	25	0.46	10	0.71	3	0.27	1	0.10	3	0.43	2	0.50	-	-	6	1.00
咽頭結膜熱	5	0.09	1	0.07	2	0.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	0.63	12	0.86	11	1.00	1	0.10	-	-	1	0.25	2	1.00	7	1.17
感染性胃腸炎	422	7.81	111	7.93	71	6.45	99	9.90	39	5.57	50	12.50	12	6.00	40	6.67
水痘	46	0.85	13	0.93	18	1.64	4	0.40	3	0.43	1	0.25	1	0.50	6	1.00
手足口病	16	0.30	12	0.86	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	0.43	11	0.79	8	0.73	2	0.20	-	-	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	2	0.14	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 5週 (2013/01/28~2013/02/03)

2013年2月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2670	31.79	571	25.95	801	50.06	343	22.87	418	34.83	165	27.50	113	37.67	259	25.90
咽頭結膜熱	5	0.09	1	0.07	2	0.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	0.63	12	0.86	11	1.00	1	0.10	-	-	1	0.25	2	1.00	7	1.17
感染性胃腸炎	422	7.81	111	7.93	71	6.45	99	9.90	39	5.57	50	12.50	12	6.00	40	6.67
水痘	46	0.85	13	0.93	18	1.64	4	0.40	3	0.43	1	0.25	1	0.50	6	1.00
手足口病	16	0.30	12	0.86	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	2	0.14	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第5週 2013/01/28～2013/02/03)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2670	3	32	109	112	109	130	151	107	105	95	83	425	156	210	296	215	132	106	55	39

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	25	5	7	5	3	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	-	-	1	1	5	4	8	3	2	-	4	4	-	2
感染性胃腸炎	422	2	18	37	38	25	29	23	15	19	17	17	53	19	110
水痘	46	1	4	8	5	12	5	4	1	1	-	3	-	2	-
手足口病	16	-	1	7	5	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	1	8	8	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

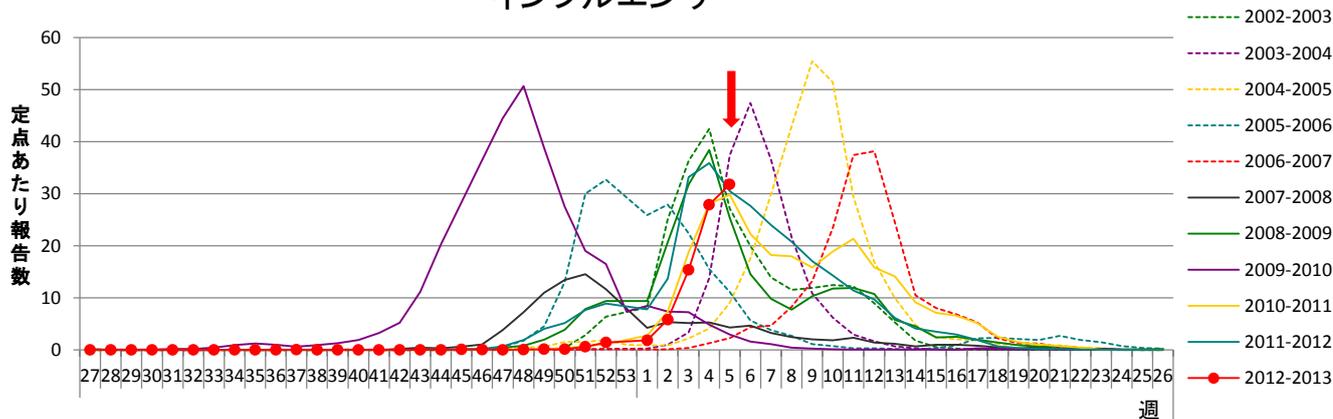
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

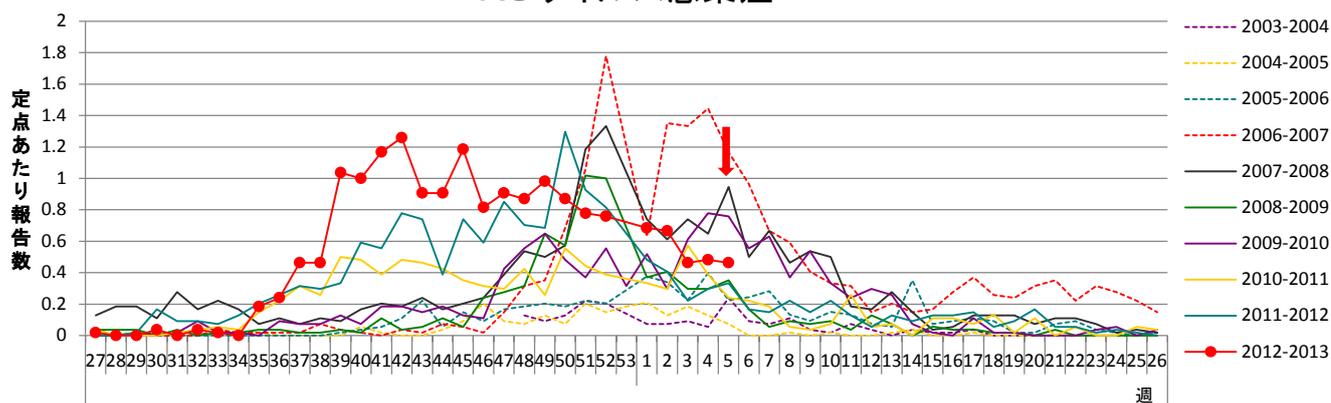
2013年 5週

分類	疾病名	2013			疾病名	2013			疾病名	2013		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	16	475	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-
	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	3	29	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	1	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	-
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	-	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
先天性風しん症候群		-	-	-	梅毒	1	2	7	破傷風	-	-	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	1	6
麻しん		-	-	6		-	-	-		-	-	-

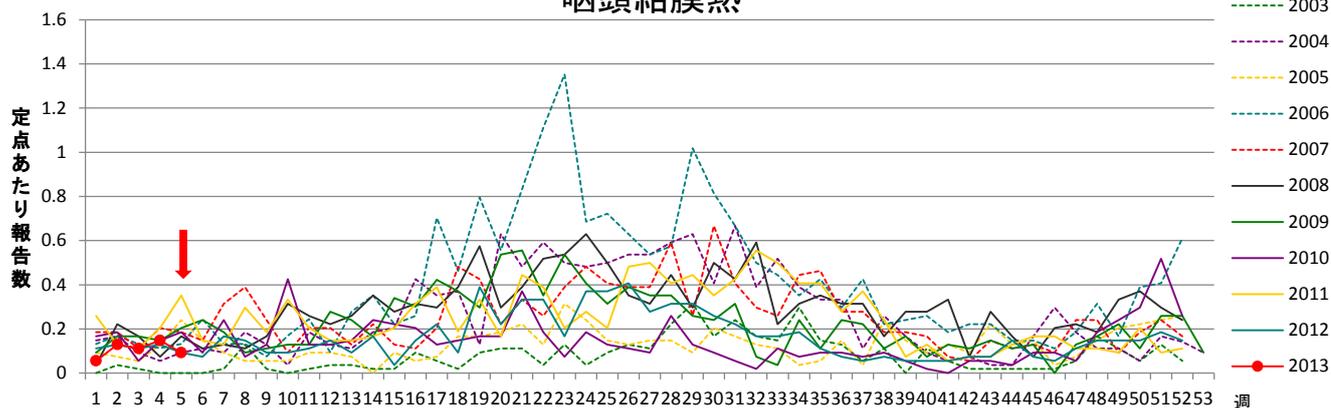
インフルエンザ



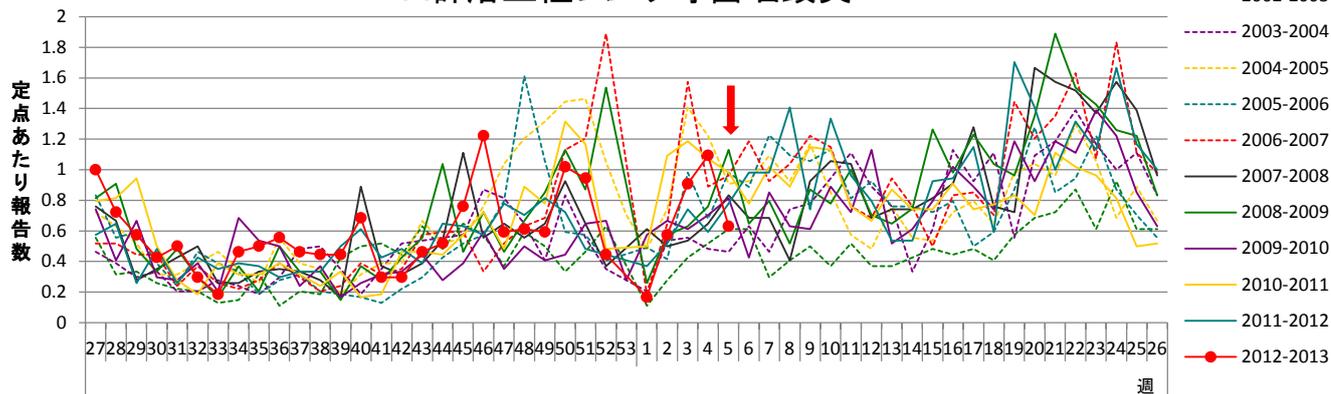
RSウイルス感染症



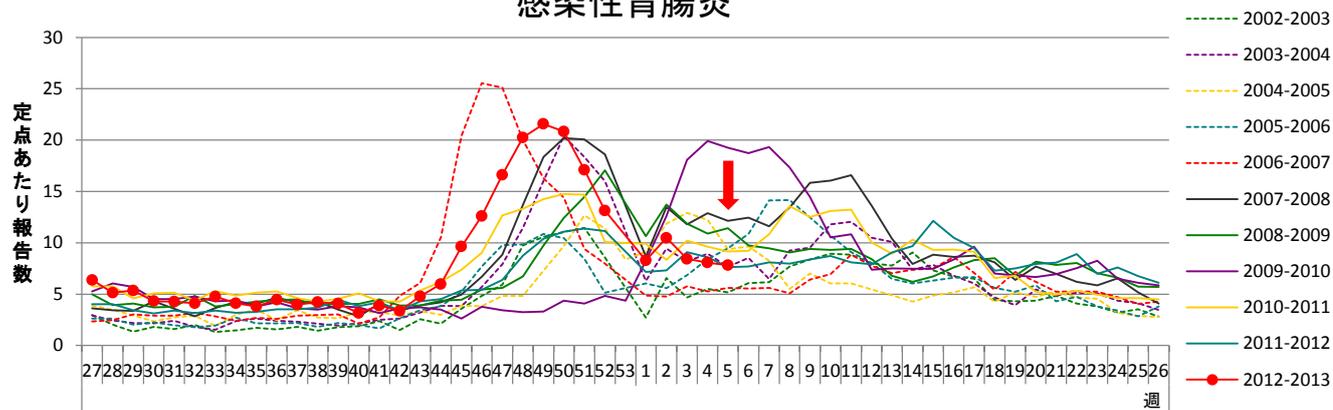
咽頭結膜熱



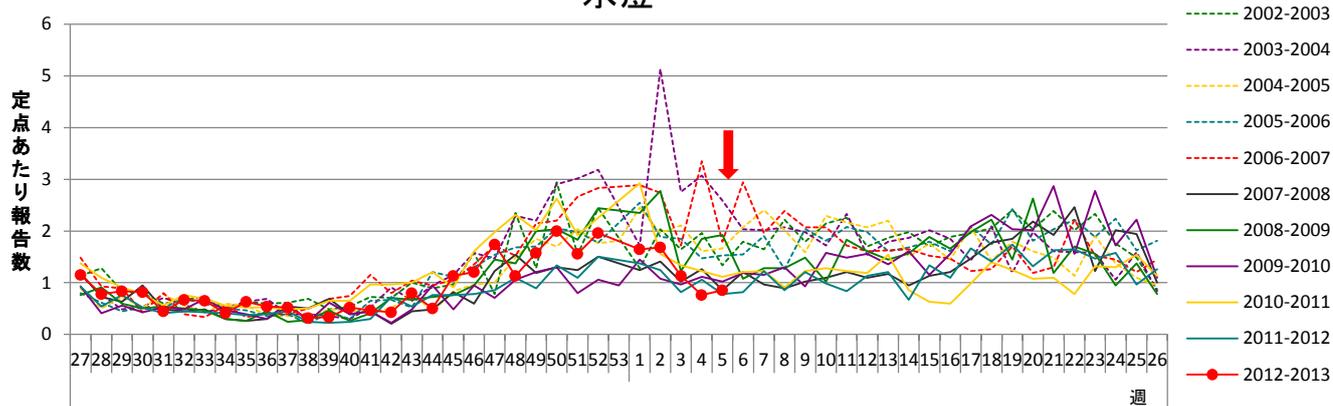
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



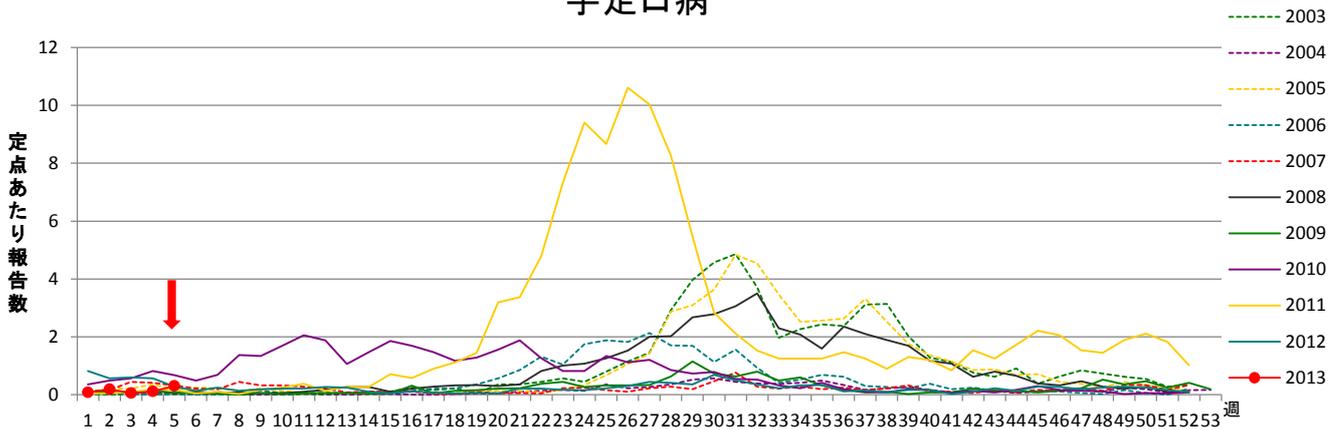
感染性胃腸炎



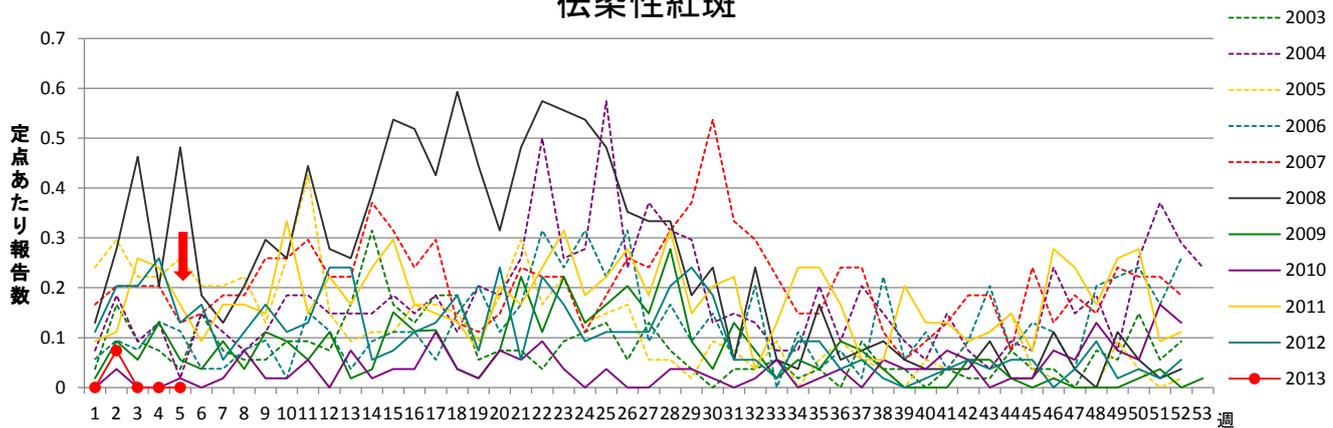
水痘



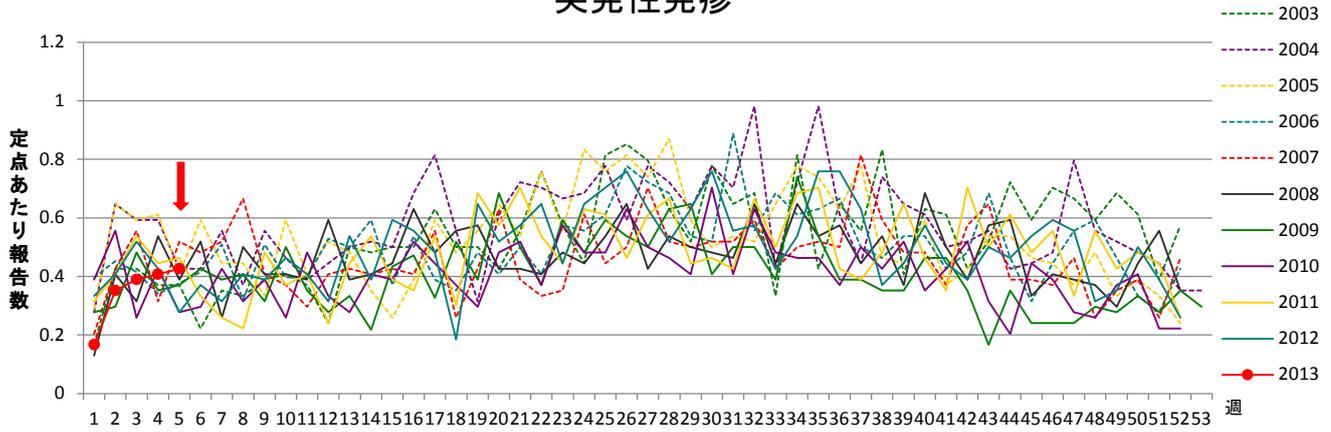
手足口病



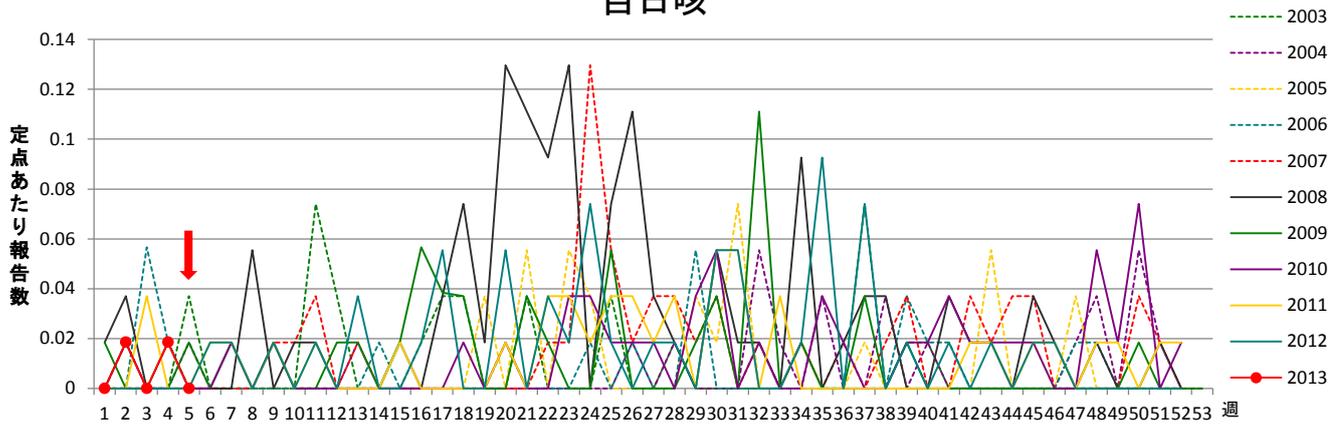
伝染性紅斑



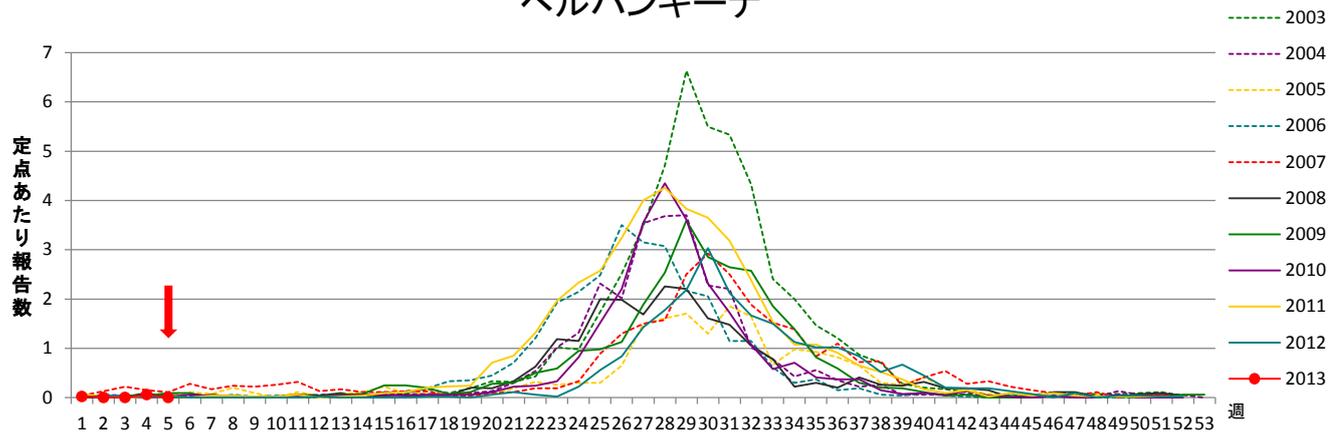
突発性発疹



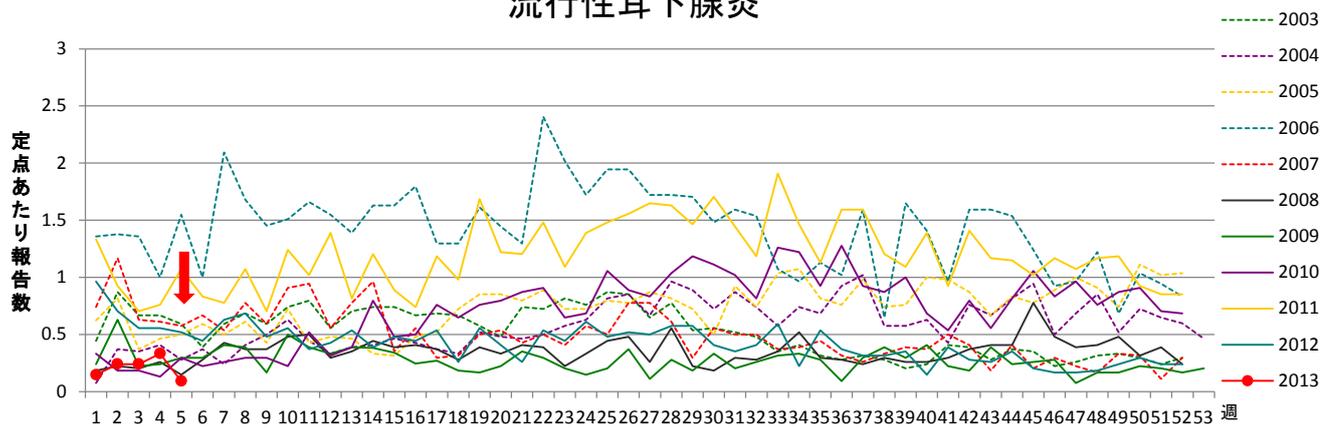
百日咳



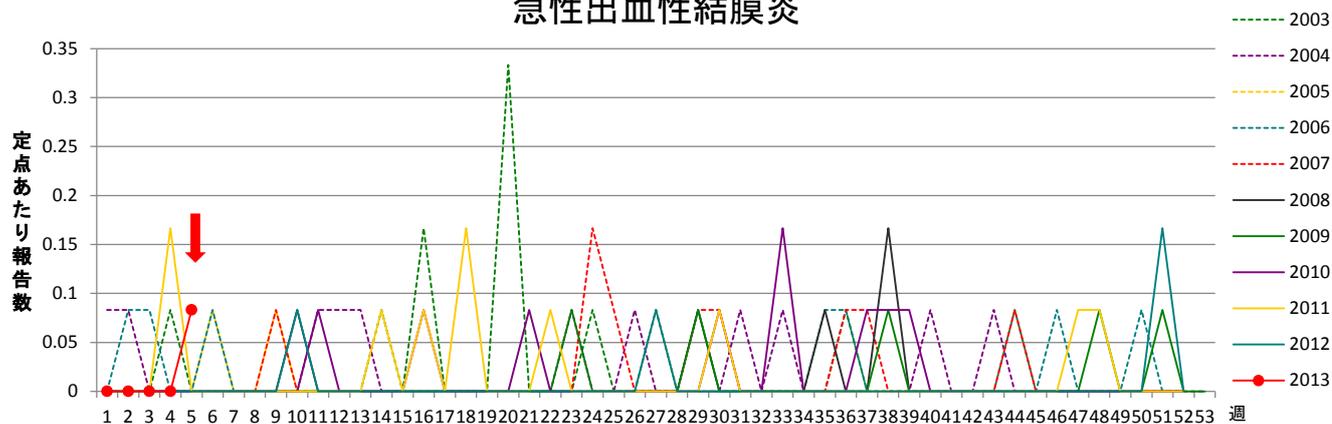
ヘルパンギーナ



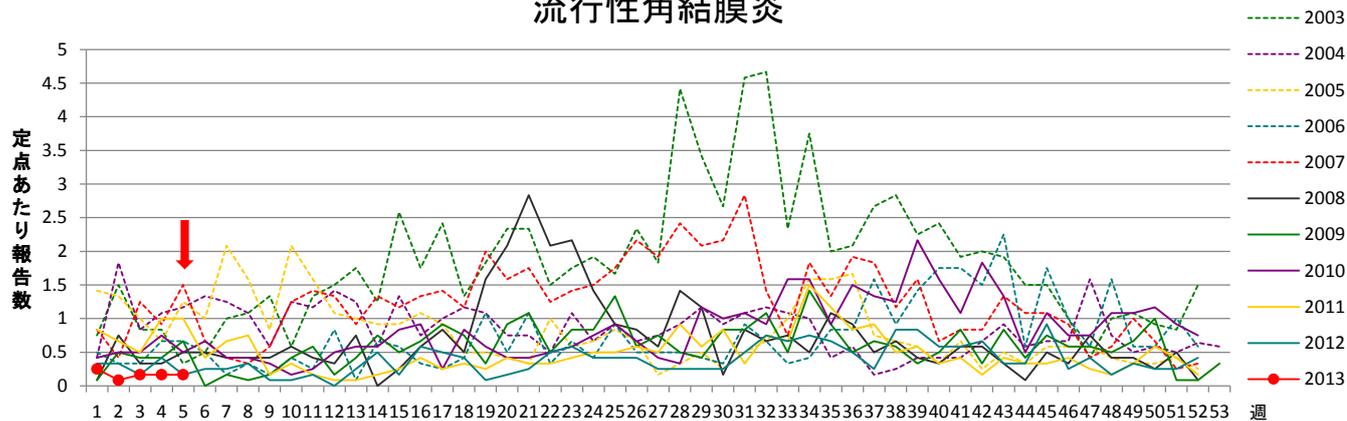
流行性耳下腺炎



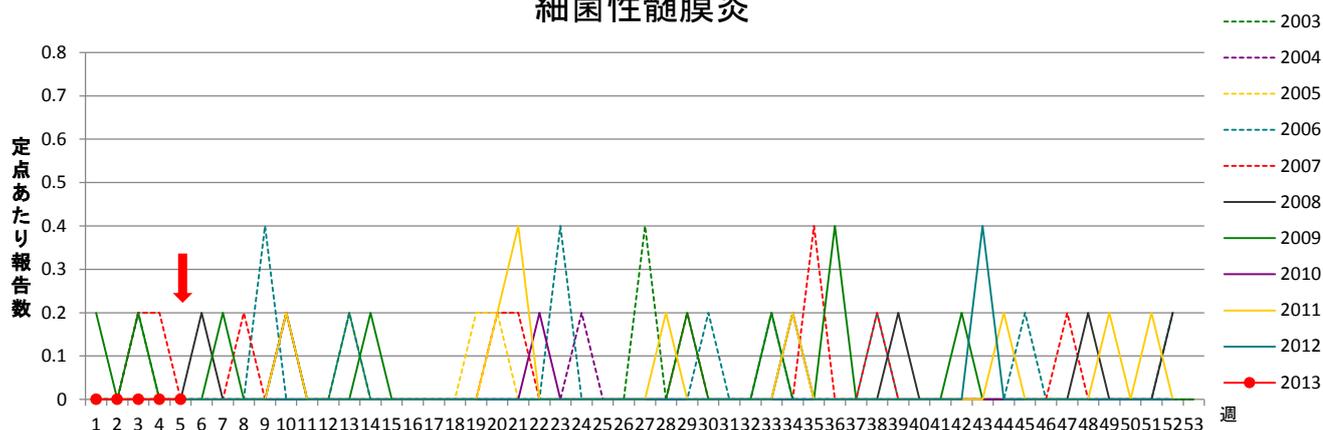
急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎

